

授業科目 臨床薬理学

【担当教員名】 樋口 宗史	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

看護学科の学生に必要な薬理作用の把握と薬に対する基本的な考え方を理解させることを目的にし、薬理作用及び体内動態、薬効影響を及ぼす要因を講義する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

看護学において必要な、種々の病態、健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。

看護学において必要な薬理学の概念と知識を習得する。

薬物の体内動態、薬効に影響を及ぼす要因についての知識を修得する。

以下の項目に対する知識を習得し、看護医療に生かせる能力を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	薬理学総論 歴史、概念、法規		講義
2	薬理学総論 受容体		講義
3	薬理学総論 薬物代謝、吸収		講義
4	薬物学各論 末梢神経系に働く薬物		講義
5	薬物学各論 末梢神経系に働く薬物		講義
6	薬物学各論 中枢神経系に働く薬物		講義
7	薬物学各論 中枢神経系に働く薬物		講義
8	薬物学各論 中枢神経系に働く薬物		講義
9	薬物学各論 循環器系に働く薬物		講義
10	薬物学各論 消化器系に働く薬物		講義
11	薬物学各論 抗生物質、抗癌薬		講義
12	薬物学各論 内分泌系に働く薬物		講義
13	レポートあるいは講義		講義
14	レポートあるいは講義		講義
15	試験		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	プリント集として薬理学サブノートを購入のこと			
参考書	医科薬理学（樋口宗史他編集）、南山堂、2006年、12000円 分子神経薬理学（樋口宗史他編）、西村書店、2004年、8500円			
その他の資料	神経薬理学（樋口宗史編）、メディカルサイエンスインターナショナル社、2005年、4700円			

【評価方法】

出席を重視する。

出席点があるのでできるだけ出席すること。

【履修上の留意点】

欠席などの場合はレポートを提出すること。